

母子保健領域における 心理職との連携を図るための研修会 ー心理職による子どもの事例提示を通じてー

と き 令和7年3月9日(日) 10:00～12:00

ところ 山口県医師会6階会議室

(Zoom「ウェビナー」を併用したWeb方式併用)

[報告: 常任理事 河村 一郎]

令和5年度から心理職と医師、他職種との連携を図るため研修会を開催しているが、令和6年度は小児領域の症例について2名の臨床心理士の方に1例ずつ症例提示をしていただき、スーパーバイザーの稲野靖枝先生にコメントをいただいた後、質疑応答を行った。

座長: 鼓ヶ浦こども医療福祉センター 伊住 浩史
スーパーバイザー:

(医) 山陽会長門一ノ宮病院 稲野 靖枝

事例提示

①母親への激しい暴力がみられる小学生女兒への
プレイセラピーと薬物療法による治療過程
～超低出生体重で出生した児への寄り添いの一例～

山口県立総合医療センター

臨床心理士・公認心理師 山野上典子

②先天性心疾患をもつ小学生男児のプレイセラピー
～アグレッションの問題により小児科から精神科
に紹介された事例～

山口県立総合医療センター

臨床心理士・公認心理師 宇佐川里江

まず初めに山野上先生が山口県立総合医療センター臨床心理部の概要について話された。2例とも幼少時や小学生時から家庭で荒れたり、乱暴があったりした子に箱庭などを使ったプレイセラピーや悩める母親などへの支援、薬物療法などにより、軽快していった症例であった。

1例目は、超低出生体重児で出生した子が5歳ごろから家庭で荒れ始め、母親への激しい暴力があった。背景に、早産による未熟性が関連してい

ると思われた。知的には正常でADHD的な傾向があったが、その後プレイセラピー及び母親との面談、投薬により、小学2年生ごろから落ち着いていった。

2例目は、先天性心疾患で4歳時に根治術を行った子であったが、小学1年生ごろから家庭で乱暴やかんしゃくを起こすようになった。この攻撃性は、制限の多い生活歴に由来すると思われた。発達検査ではアンバランスさがみられたものの、自閉傾向はなく、本人へのプレイセラピーと母親との面談により、小学3年生ごろから落ち着いていき、中学生になるとしっかりしてきた。

参加者は現地25名、ウェブ参加62名で、医師21名(小児科9名、産婦人科4名、精神科5名、内科2名、整形外科1名)、助産師7名、看護師1名、保健師19名、栄養士1名、心理職26名、児童福祉士・児童心理司4名、社会福祉士1名、その他7名であった。多職種の参加があり、有意義な会であった。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8565 宇部市南小中2丁目3-1 山陽大学附属
TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090
ホームページアドレス <http://www.mme-iisoon.co.jp/mib>
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい